

地域猫活動ガイドライン

野良猫で迷惑している

- ふん尿で困っている
- ゴミをあさりに来る
- 猫アレルギーで猫に近寄れない
- 鳴き声がうるさい
- 車の上に乗ってボンネットにキズをつける

かわいそうな猫を助けたい

- お腹をすかせた猫に餌を与えたい
- 家で飼いたいけど飼えない
- 猫のために何かしたい
- 不妊去勢手術をしてあげたいけどお金がかかる

共通の願いは、野良猫を減らすこと！



そこで！

地域猫活動

猫の世話をしつつ、野良猫を減らす方法です

令和7年6月
白石町生活環境課

猫は繁殖力が旺盛な動物で、暖かく日照時間の長い時期になると雌猫は発情期を迎え、1年に2～3回発情します。発情期を迎えると、普段とは異なる鳴き声やおしっこによるマーキング行為が目立つようになります。猫は交尾刺激により排卵するため、ほぼ100%妊娠し、1頭の猫が1年後には15頭以上に増えることもあります。



飼い主のいない猫をかわいそうだと思う方がいる一方で、猫によるふん尿や鳴き声などにより、迷惑している方もいます。エサを与える方と、近隣住民との間でトラブルになるケースも見られます。

「地域猫活動」は、このような飼い主のいない猫の問題を「地域の環境問題」として捉え、地域住民と飼い主のいない猫との共生を目指します。

地域猫活動にチャレンジしましょう

地域猫活動とは、地域の住民の方々が主体となって取り組む活動であり、活動の成功には地域の方々の理解と協力が必要です。猫が好きな人だけではなく、猫が嫌いな人、猫で困っている人、みなさんの協力がなくては成り立ちません。

今いる猫をこれ以上増えることがないように不妊去勢手術を実施し、餌やりやトイレ設置などのルールを定め、猫の排除に拠らないで問題解決を図る活動です。

地域猫活動では頭数を増やさないために不妊去勢が重要になります。



1 地域猫とは

地域の理解と協力を得て、地域住民の認知と合意が得られている、特定の飼い主のいない猫を「地域猫」といいます。

2 不妊去勢手術を行う

飼い主のいない猫は、交通事故や感染症などの危険にさらされており、寿命は4～5年と言われています。地域内のすべてで飼い主がいない猫に不妊去勢手術を行えば、だんだんと数が減っていくことになります。

また、手術をすることにより性質がおとなしくなり、発情期の鳴き声やマーキングによる被害の減少も期待できます。

手術した猫には、未実施の猫と識別するために耳をV字カットして印をつけます。耳のカットは手術時の麻酔中に行われます。

3 ふん尿の被害を減らすために

周辺住民の理解が得られる場所に猫のトイレを用意し、ふん尿の被害を減少させましょう。定期的にパトロールなどを行い、トイレ以外での排泄物も処理、清掃しましょう。

4 エサやりのマナー

地域の方々に説明し、ご理解をいただいて、エサ場を決めます。
エサは決まった時間に、適切な量を与え、食べ終わったらその場ですぐに片付けましょう。エサを置いたままにしておくことは、不衛生な上、地域猫以外の猫が集まるなど、ご近所とのトラブルのもととなります。エサ場の周辺は常に清潔が保たれるよう、配慮をしましょう。

地域猫活動のながれ

1 活動グループの結成

まずは、お住いの地域で現状の問題点や解決に向け話し合い、理解を得ましょう
地域猫活動を行うにあたって、活動地域に居住する代表者を中心として、地域の人3名以上を含むグループを作りましょう。

2 活動地域の猫の現状の把握・対象猫の特定

地域猫にしていこうとする猫が何匹いて、それぞれがどのような特徴を持った猫なのか、猫によるトラブル・問題も含め、現状や対象となる猫を把握しておきましょう。

3 活動ルールと計画を作成

地域の合意・理解を得るためにも、活動のルールを作りましょう。ルールには、エサやり・ふん尿の処理などの場所・方法などを決めるほか、グループ内で役割分担等を決め、無理なく活動が継続できるような計画を作りましょう。

4 地域住民に説明、同意を得る

地域猫活動の実施には周辺住民の理解が必要であり、地域の合意・理解は不可欠で最も大切なことです。周辺の人々に十分に趣旨を説明し、理解を得た上で活動を行っていきましょう。自治会や隣保班などで話し合しましょう。

5 地域への活動の周知を行う

地域で活動を行うことを、より多くの方に知ってもらうことも必要です。大々的に公表するといったことではなく、地域内で知らずに外飼いの猫が手術されることがないようにするためです。地域の中には、飼い猫を屋外で飼育している方もいるかもしれません。不妊去勢手術を実施しようとする猫が飼い猫ではないか、事前に回覧板や掲示板などで周知することも必要です。

実際に飼い猫を無断で手術してしまい、トラブルになることもあります

6 猫の捕獲、不妊去勢手術の実施

猫は早ければ生後6カ月で性成熟し、メス猫は1回に平均5匹、1年で最大3回子猫を産みます。地域猫活動には不妊去勢手術は不可欠です。手術済みの猫には個体識別のため、耳にV字カット（サクラカット）を施しましょう。手術前には、飼い猫ではないか、所有者の有無を確認するようにしてください。

7 飼育管理の実施・継続

水場・エサ場・トイレは地域住民の理解が得られる場所に設置し、管理しましょう。また、世話をしている猫の数、個体識別、健康状態などを、表などを作って把握しましょう。

8 猫の譲渡

猫を室内で飼育してもらえる新しい飼い主を探す努力をしましょう。地域猫を飼い猫にすることでより早く飼い主のいない猫を減らせるとともに、猫にとってもより良い環境で生きていくことが可能になります。

新しい飼い主へは、地域猫であったことやその習性、留意事項を正しく伝えるとともに、終生飼育および適正飼育に関する情報提供を行いましょう。

9 苦情等への対応

活動地域内の住民から猫による苦情があった際には、活動代表者は誠意をもって対応し、必要に応じて相互に話し合いをもちましょう。

地域猫活動の不妊去勢手術への支援事業について

佐賀県では、県内に地域猫活動を普及・定着させるため、一定の要件を満たした市町の地域猫活動の取り組みについて地域猫不妊去勢手術券を交付する事業を展開しています。

白石町ではこの支援事業を活用し、町内でモデル的に地域猫活動に取り組んでみたいという自治会または活動グループに対して、活動計画書の作成から不妊去勢手術費用等の負担軽減に協力してまいります。

まずは、生活環境課に相談ください。

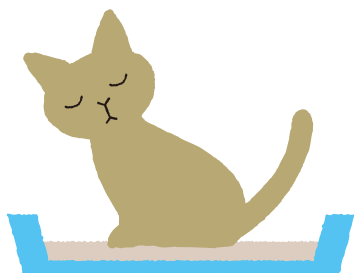
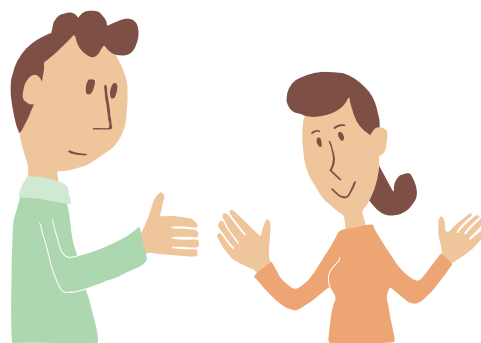
【問合先】

白石町生活環境課 環境係
電話：0952-84-7118

地域猫の進め方

1 地域での話し合い ～ご近所さんの理解を得ましょう～

地域住民、町内会や自治会の役員などが、現状での問題点や解決に向けた取組みについて話し合います。住民同士で話がまとまらない場合は、市町や県の職員など中立的な立場の人にアドバイスをもらいましょう。



2 計画づくり

野良猫の生息数の把握、活動のルール作り（餌やりの場所・時間、トイレの設置・清掃）、役割分担などの計画を立てます。

3 不妊去勢手術

猫は年に2～3回繁殖し、1回に5頭程度出産します。これ以上増やさないために不妊去勢手術を実施し、手術済みであることが分かるように耳先を少しカットして、元の場所に戻します。※不妊去勢手術費用の助成を行っている市町もありますので、各市町にお問い合わせください。



4 その後の管理

- ☐ ルールを守った餌やり：時間、場所、量の管理、置き餌の禁止
- ☐ トイレ：迷惑にならない場所に設置
- ☐ フン・尿：トイレや周辺のフン・尿を適切に処理

5 その他

- ☐ 餌やトイレの場所は、周辺環境に十分配慮して決める。
- ☐ 定期的に活動状況を地域にお知らせする。
- ☐ 新たな飼い主を探す努力をする。
- ☐ 看板等の設置や見回りによって、捨て猫の防止を徹底する。

お問い合わせ：佐賀県健康福祉部生活衛生課・各保健福祉事務所衛生対策課